

# 災害時の小児周産期医療体制構築 に向けて

## 日本産婦人科医会の災害への備え

### ICTを利用して妊産婦に寄り添う

日本産婦人科医会 遠隔医療プロジェクト委員会

平田 善康

## 総務省 地域力強化プラン

「Society5.0時代の地方」の実現に向けて

2018年12月20日

地域の安心・安全の確保のための基本的な考え方

災害の発生予防に資する **防災インフラの整備**、災害に対応できる**人材の確保**、インフラの**適正管理の推進**等による安心して暮らせる地域づくり。

総務省地域力強化戦略本部を設置

サイバー空間とフィジカル空間が高度に癒合した「超スマート社会」を未来の姿として共有、その実現に向けた一連の取り組みを「Society5.0(超スマート社会)」

第5回 データヘルス改革推進本部 平成31年2月26日

## データヘルス改革で実現する サービスと工程表 厚生労働省

1. 保健医療記録共有
2. 救急時医療情報共有
3. 健康スコアリング
4. データヘルス分析
5. 乳幼児期・学童期の健康情報
6. 科学的介護データ
7. がんゲノム
8. AI
9. 審査支払基金改革

自民党・データヘルス特命委員会

病院等全国情報インフラWG 地域医療保健ネットワーク  
国民・患者視点のデータヘルスWG PHR,オンライン診療など  
がんゲノム・AI等WG  
科学的介護等WG  
医療トレーサビリティプラットフォームの整備

## 本会における災害への備え 災害医療に対するICT化を進める

妊産婦情報のデジタル化、スマホを使った電子母子健康手帳、個人データの管理と双方向の情報提供。

- 一次医療施設と地域・総合周産期センター  
行政との連携が容易になる。
- 遠隔医療が容易になる。

周産期・救急医療レベルが格段に向上する

## 本会における遠隔医療の推進

日本産婦人科医会 遠隔医療(オンライン診療を含む)プロジェクト委員会(平成30年10月)

- 災害時・救急搬送時の遠隔医療 スマホやウェアラブル端末で血圧や心拍など妊婦情報の収集、管理、データ転送。そして緊急時オンライン診療へ。
- 胎児モニタリングや超音波検査で胎児情報をインターネットで共有する遠隔妊婦管理システム
- 妊産婦、胎児情報を妊産婦と医療機関と自治体で共有、見守りネットワークを構築、リアルタイムに情報共有と妊産婦への情報提供と相談。
- 平時には産前産後メンタルヘルスケアにも、スピーディな支援、相談、診療へ。

## 妊産婦への平時の備え

- 約47%の分娩を扱う有床診療所、身近に直接関わっている医療機関が、乳幼児、妊産婦等の要配慮者に防災知識の普及を行う。地域産婦人科医会との連携による、情報収集方法の周知
- 地域の研修や訓練の充実に対する支援
- 地域医療の最前線、分娩をとり扱う小規模病院(一般病院・有床診療所)にも、緊急時の物資の必要性。物的備蓄(食料、飲料水、医薬品、燃料、通信設備、交通など)助成の手厚い支援
- 特に無停電非常用電源装置(72時間)の助成  
未来の「あちこち電力」ワイヤレス給電(平成30年情報通信審議会)

# 災害時妊産婦に寄り添う

日本産婦人科医会

フィジカル空間(現実社会)として、  
現地、避難所への訪問診療  
地域産婦人科医会との連携  
身体的・精神的な支えを行う。

速やかに分娩のための必要な物的支援を確保する  
仕組み

災害時、まずは電力そして水

物的支援

(食料、飲料水、医薬品、燃料、通信設備、

分娩セット、ミルク、手術セットなど)、

人的支援(医師・助産師・看護師等)等

サイバー空間 妊産婦との情報共有 スマホ  
遠隔妊婦管理